

年間診療業務をしつつ、診療所医師を2名体制にし、ワークシェアをしながら離島のお手伝いや国際保健活動を行っていらっしゃいます。普段の仕事、かかわりの延長に災害支援の活動もあるんだ、というメッセージは、自分たちの日本での仕事を振り返るいい機会になったと思います。緊急医療支援活動で求められるスキルなどについて、気仙沼などでの活動をもとに具体例を挙げてお話しされ、説得力がありました。

樋戸健次郎先生からは、国際災害救助への提案として薬や手技などの標準化、マニュアル作りなどの提案がなされ、それを踏まえてシンポジウムは進行しました。

自衛隊中央病院の田村格先生は災害時に自衛隊に求められる役割について説明されました。災害時にはパッケージで出られるのが自衛隊の強みという話は、東日本大震災時にアムダで活動していた時、私自身も実感したことでした。要請主義という話の一方、災害派遣の3要件があり、その中でも非代替性(民間でできることはやってはいけない)という点が印象的でした。

カンボジアの帰還難民支援が最初の災害支援の経験だったという沖縄中部病院の高山義浩先生のお話では、「日常の備えの延長に災害支援がある」「パンデミックは災害そのものである」「現場で大事なものは目の前の業務に没頭している人を本来業務に戻す仕事」という様々な金言が繰り出され、目から鱗でした。日頃の業務に対してどうプライオリティを置くかを訓練せよ。今やっている仕事の意味を考えながら行動するのが大事というメッセージに痺れました。

その後シンポジストとフロアを交えての討論では、

「被災地ではニーズが刻々と変わるのでフレキシビリティが大事」

「日常の仕事を大事にしながら、非日常にどう備えるか」

「標準化だけでなく、地域特性(地域の文脈)をどう活かすかという見方も大事」

という話も出ました。年を取ってから海外に出ることで、人生経験がプラスされてより円滑に活動できる面もあるという白川さんの意見に勇気をもらえた気がしました。

大泉先生と高山先生からは、最後に、主に学生向けに「自由に旅に出よう」というメッセージが出されました。

今回は初めてシンポジウム形式にトライしました。森先生と甲斐先生の両司会ぶりはずすがで、議論の流れもこれまでで一番スムーズでした。来年のセミナーも7月に再び東京で行うことが決まりました。引き続きよろしく願いいたします。

JA 長野厚生連 佐久総合病院 坂本 昌彦

=====

国境なき医師団 海外派遣スタッフ募集説明会

=====

国境なき医師団(MSF) 日本による、海外派遣スタッフ募集説明会です。

派遣経験者が現場の活動報告を、採用担当者からは採用情報をお話致します。
質問の時間もたっぷりあります。

MSF で働くことに興味のある方の参加をお待ちしております！

詳細はこちら

<http://www.msf.or.jp/work/infosessions.html>

≪東京説明会≫

日時：2017年10月1日（日）14:00～16:00

会場：国境なき医師団日本事務局4階 会議室「あおい」

定員：100名

参加予定 MSF スタッフ：安藤恒平 / 神田紀子

≪大阪説明会（英語）≫

日時：2017年10月29日（日）14:00～16:00

会場：エル・おおさか（大阪府立労働センター）6階 大会議室

定員：100名

参加予定 MSF スタッフ：竹中裕 / ガスパー・シュラキ

=====

MSF 外科・産婦人科・麻酔科セミナー2017

=====

日時：2017年10月22日（日）11:30～18:10

会場：国境なき医師団日本事務局

言語：日本語

参加費：無料（要事前申し込み）

対象：MSFの活動に参加することに関心のある外科、産婦人科、麻酔科の医師

定員：100人

詳細はこちら

http://www.msf.or.jp/information/detail/info_3423.html

=====

第3回 愛知国際病院国際医療支援室講演会

=====

愛知国際病院国際医療支援室では、毎年アジア保健研修所のオープンハウスに併せ、講演会を開催致しております。国際医療に関心をお持ちの方でしたらどなたでも無料でご参加いただけます。

☐MAIL. info@tochinoki-net.com

☐URL. <http://tochinoki-net.com/index.html>

☐FB. <https://www.facebook.com/tochinoki.net/>

